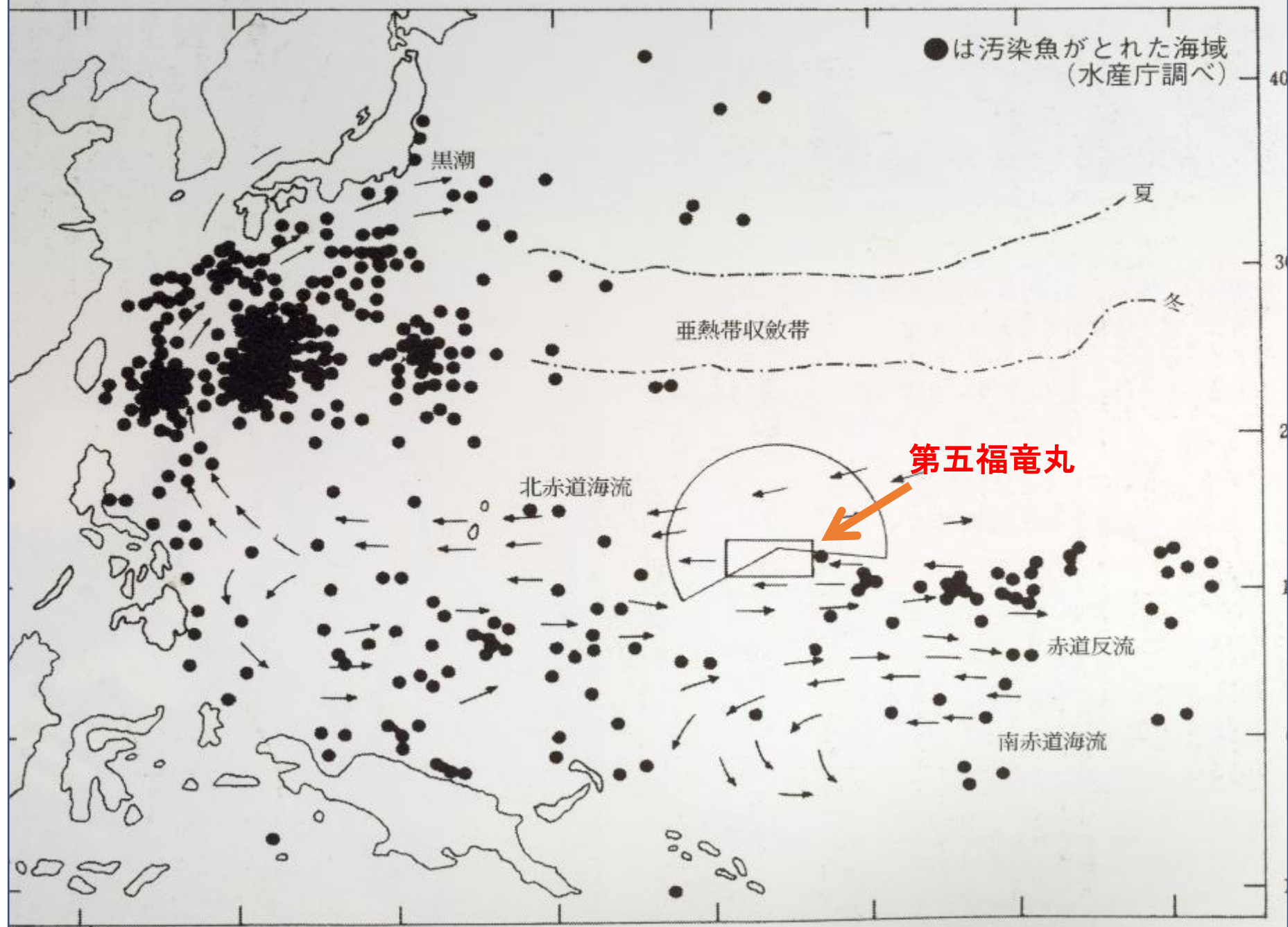


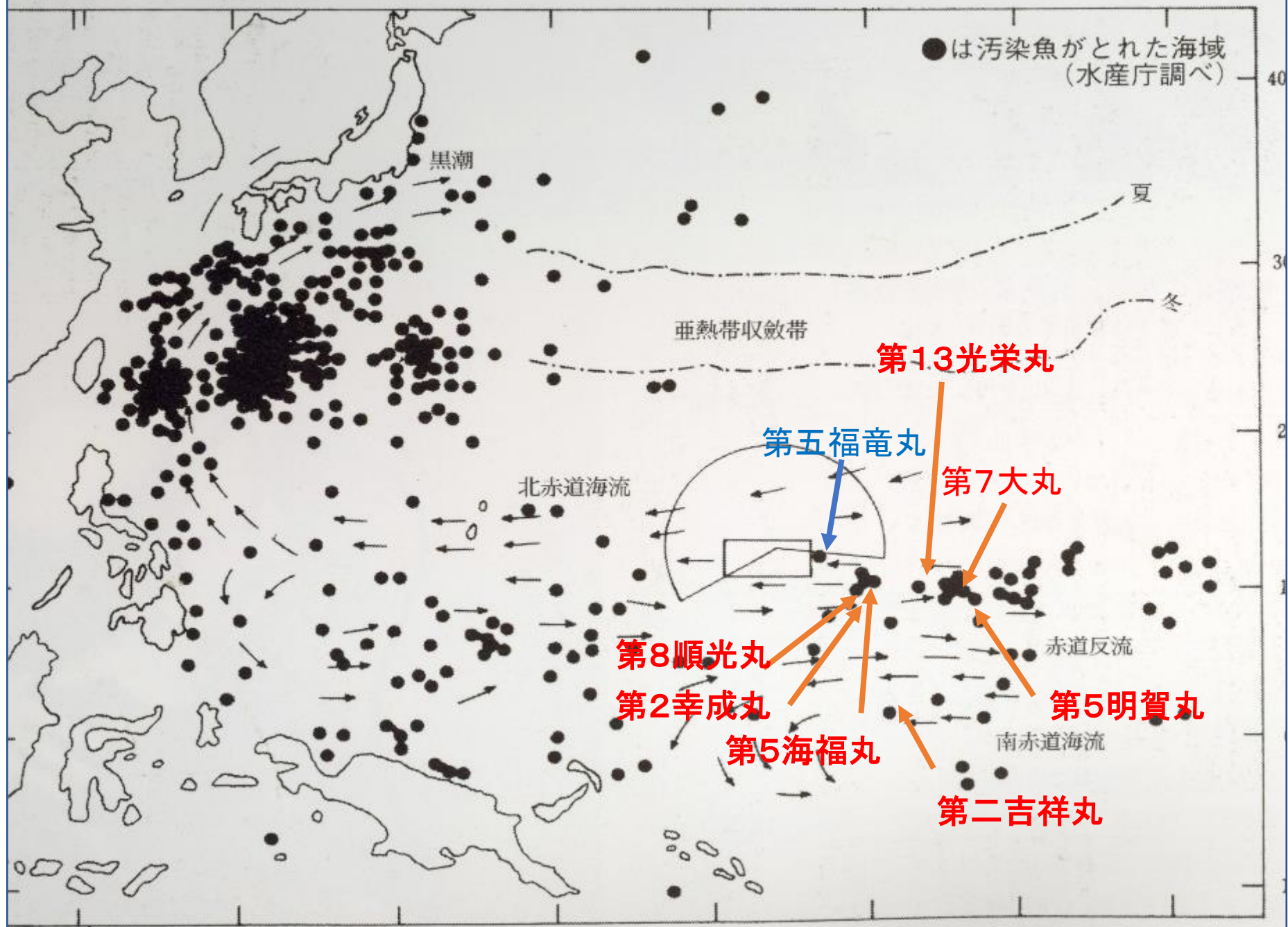
第五福竜丸展示館  
学芸員 市田真理

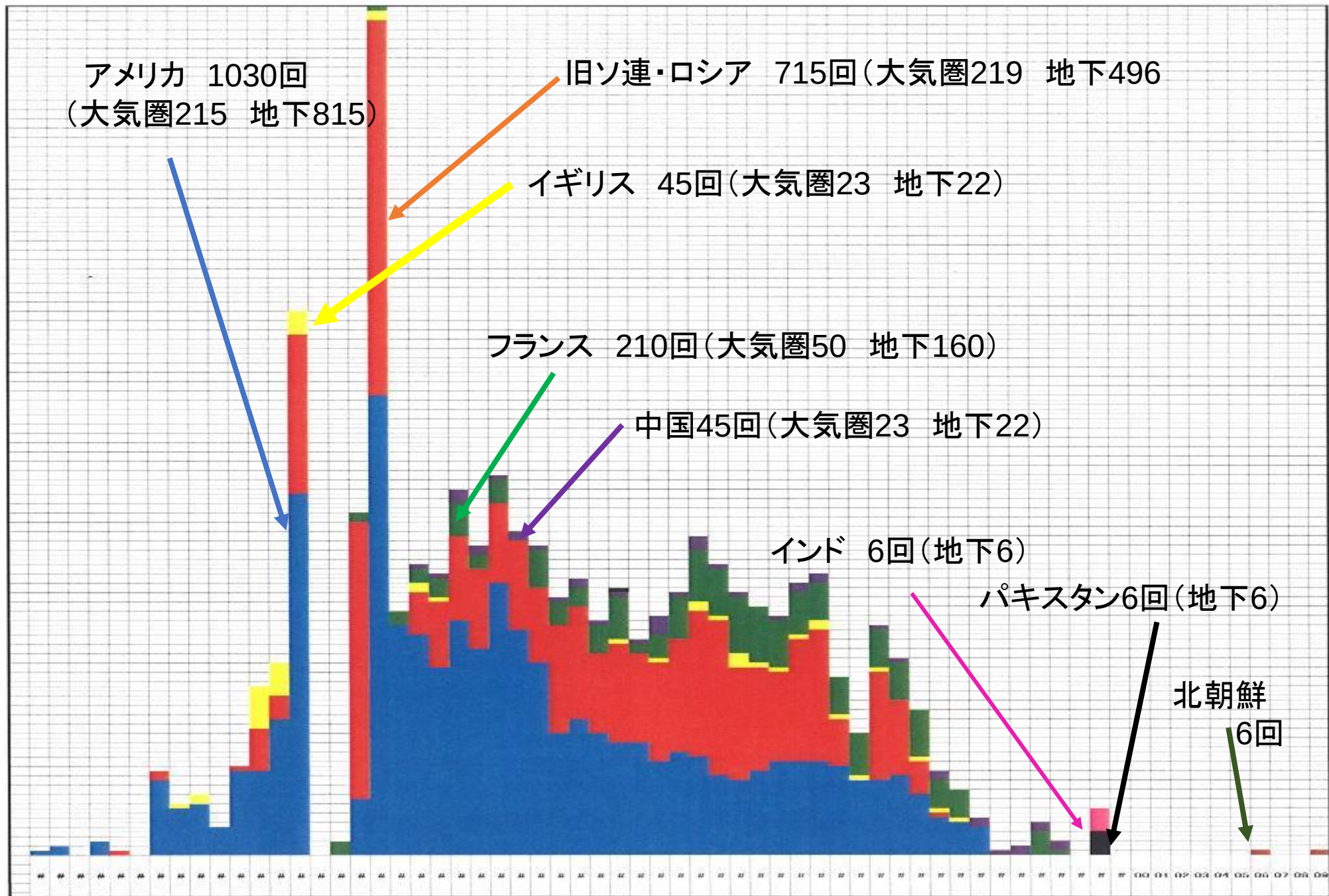


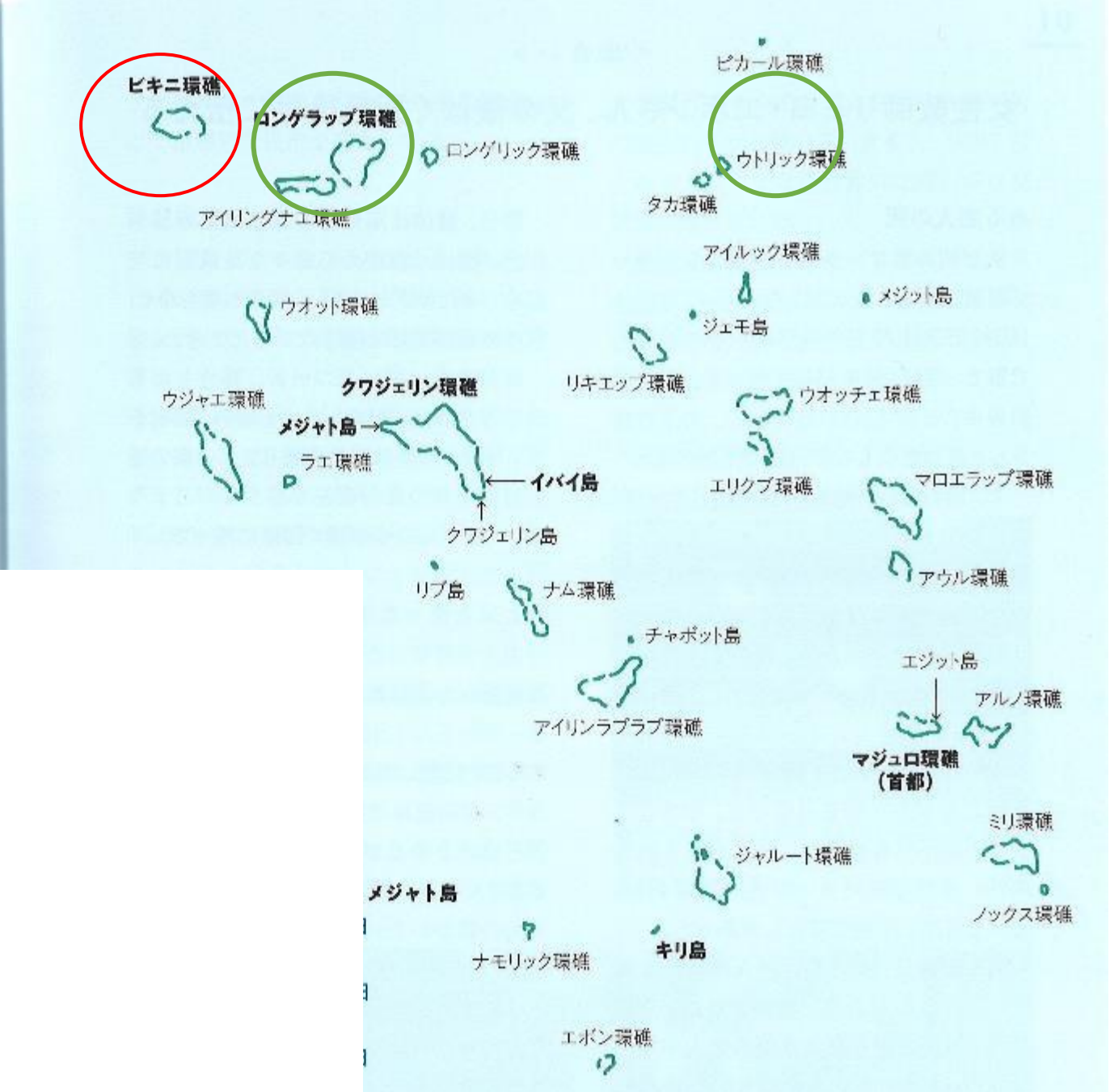
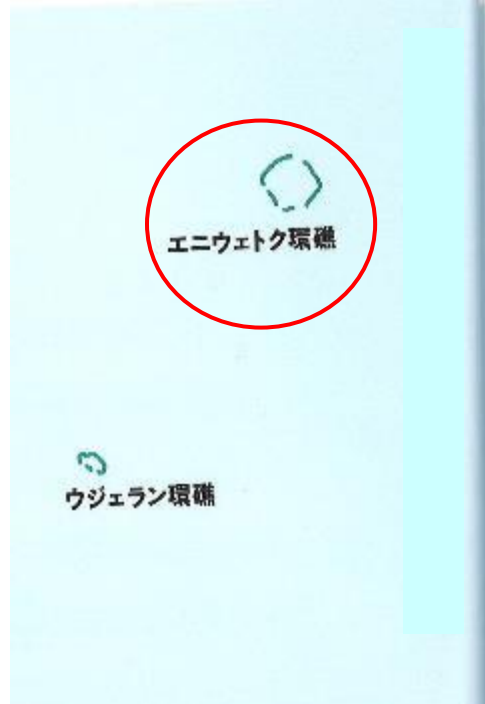
太平洋で放射能汚染魚が漁獲された位置の分布（1954年3月～12月）



太平洋で放射能汚染魚が漁獲された位置の分布（1954年3月～12月）



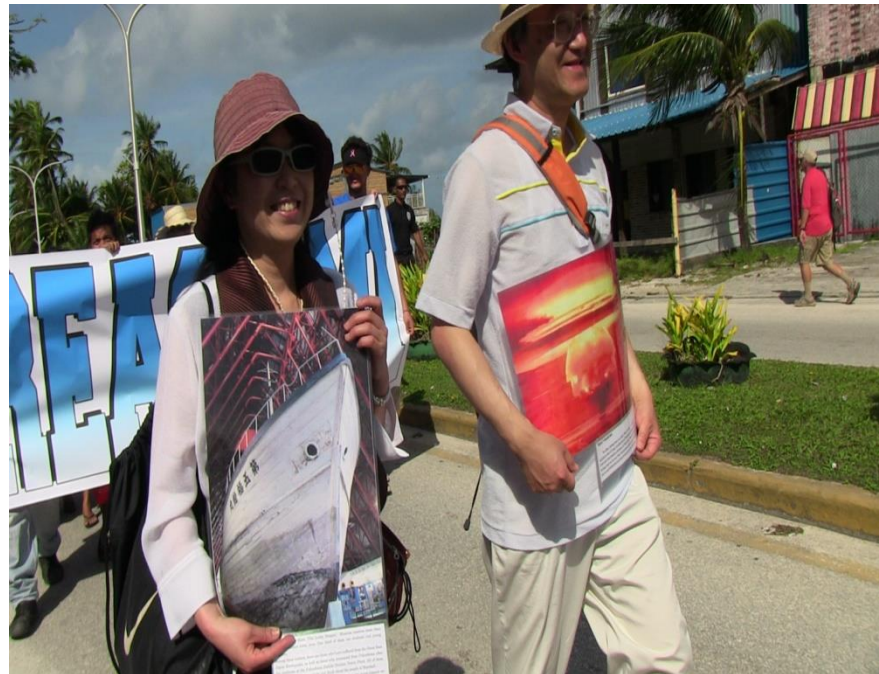






マジュロ市内の小学生  
から大学生、NGOの若  
者ら数百人が歩いた

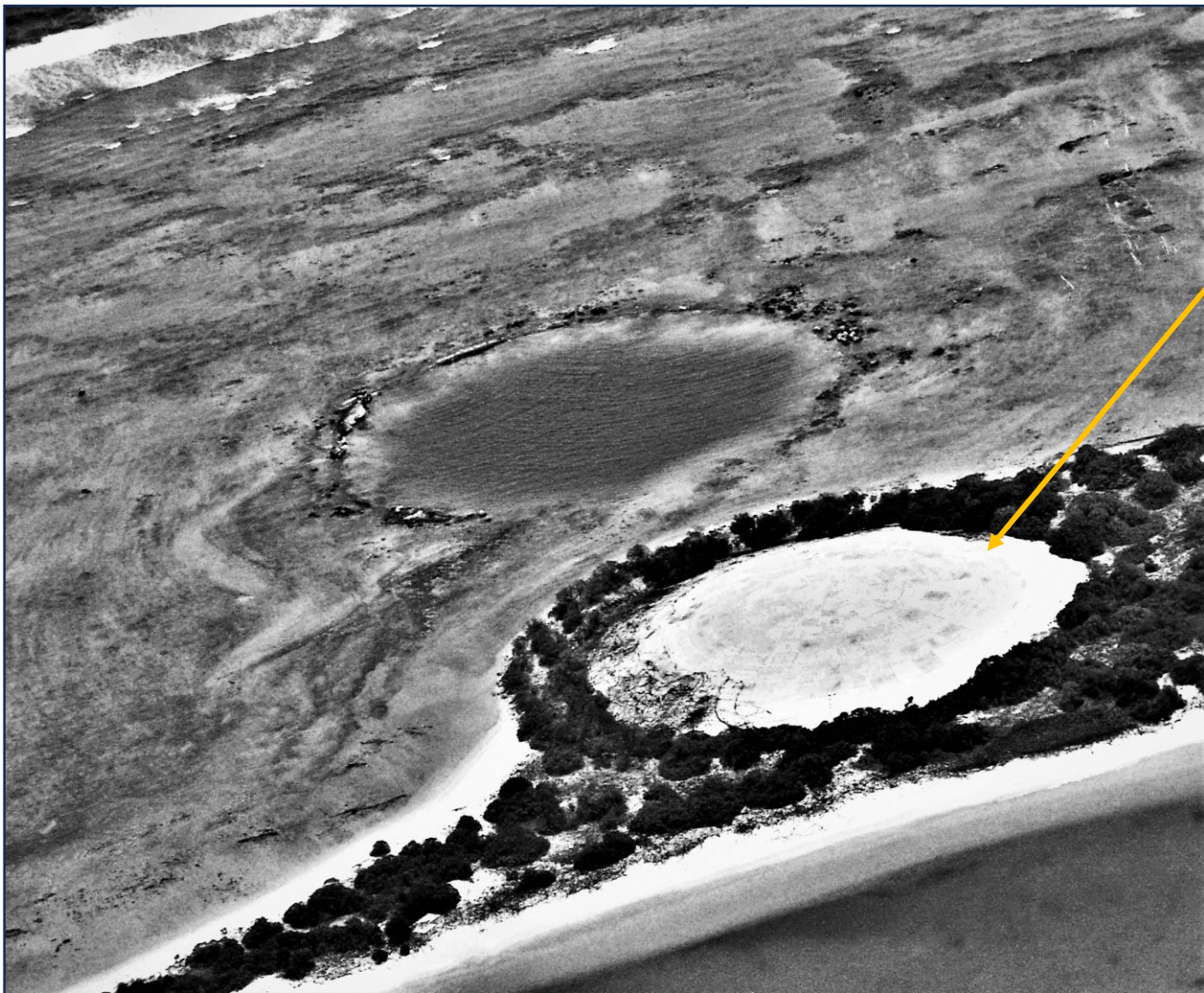
2017. 3. 1





Nuclear Victims and Survivors Remembrance Day  
核被害者・犠牲者を記憶する日

ヒルダ・ハイネ大統領 (2016-2020)



撮影・豊崎博光 1994年5月

ルニット・ドーム



撮影・島田興生 1981年12月

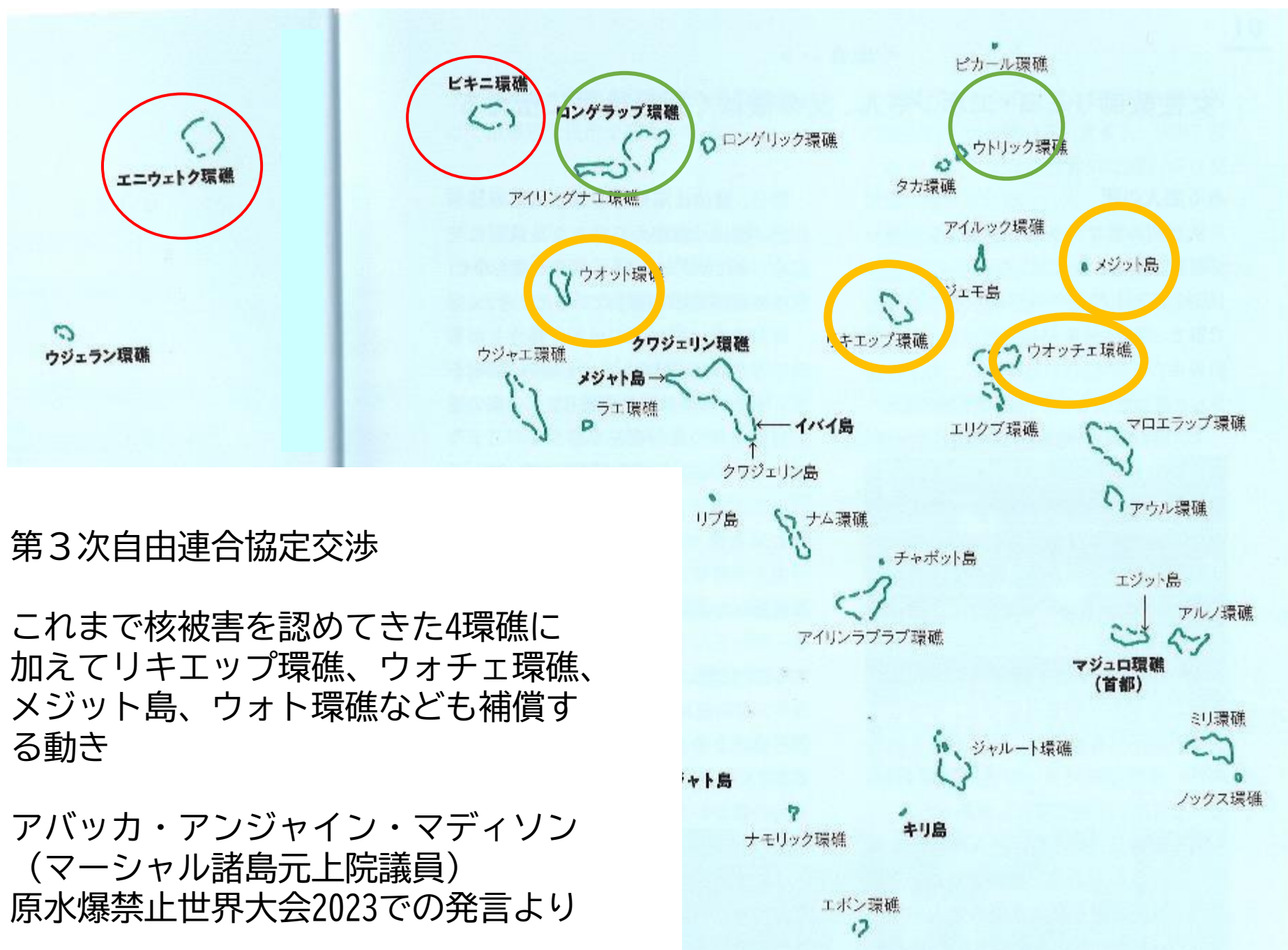
マーシャル諸島エニウェトク環礁にルニット・ドームと呼ばれるコンクリートのドームがあります。これは核実験により残ったクレーターに、放射能に汚染された<sup>はい き ぶつ</sup>廃棄物を封じ込めて作られた廃棄物処理施設です。ドームの建造から40年以上を経た現在、<sup>けい ねん れっ か</sup>経年劣化や巨大なハリケーンによってドームが崩壊し、内部にある汚染が海に流出することが懸念されています。

核実験の終了から20年後の1977年、米軍は兵士約6,000人を動員してエニウェトク環礁南部の島々の除染作業を行った。ドームは、クレーターにセメントと混ぜた瓦礫と土砂を入れ、厚さ45cmのコンクリートで蓋をただけのシンプルな構造。底面には漏洩対策はとられていない。



※米エネルギー省ローレンス・リバモア国立研究所資料より

企画展「被ばくの島マーシャルのサンゴと人と海と」(2019)  
「解説バナーより抜粋



### 第3次自由連合協定交渉

これまで核被害を認めてきた4環礁に加えてリキエツプ環礁、ウオッチェ環礁、メジット島、ウオット環礁なども補償する動き

アバッカ・アンジャイン・マディソン  
(マーシャル諸島元上院議員)  
原水爆禁止世界大会2023での発言より

## NEWS

# First nuclear legacy conference

March 9, 2017 by Journal



Clockwise from left are Nuclear Legacy Conference speakers Tony 'Ton-Ton' deBrum Kattil, Dr. Neal Palafox, Tony deBrum, Bill Graham, Kenneth Kedi, Glenn Alcalay, Trudy Peterson, and Emlyn Hughes. Photos: Hilary Hosia.

Following the traditional annual program commemorating Nuclear Victims Remembrance Day at the Meto Court area in front of the capitol building Wednesday morning, the RMI's first ever nuclear legacy conference opened in the afternoon at the International Conference Center. The theme for the conference was "Charting a Journey Toward Justice."

After an invocation by the Reverend Enja Enos, Minister of Foreign Affairs John Silk gave welcoming remarks during which he explained that his involvement in dealing with the nuclear legacy began in the 1980s when he worked for Micronesian Legal Services Corporation assisting the people of Enewetak when they were moved back to their atoll from Ujelang.

He said that his experiences at that time taught him that the nuclear weapons testing program had "forever altered our culture."

Minister Silk shared a personal perspective on the effects of the weapons testing that he has through his grandchildren. Five of them are descendants of the group of Bikinians originally removed from their atoll in 1946 and two are part Enewetakese. He described all of them as "children of the 21st century who are also orphans of the

**41 foot YACHT with  
50hp motor 4 SALE in Majuro**



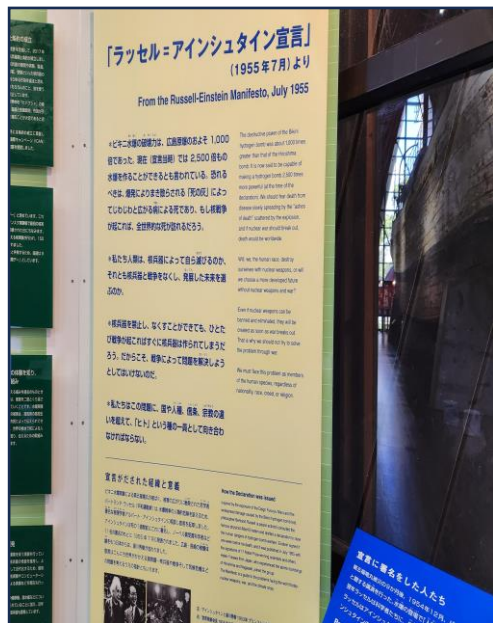
**REDUCED to \$52,000 o.b.o.**

**email: caryevarts@yahoo.com  
phone: (692) 455-3044**

**Click here for more information**

**SEARCH**

常設展示「ラッセル＝アインシュタイン宣言」コーナーで気候危機についても言及するリニューアルをおこないました（2022年春の展示替え）。



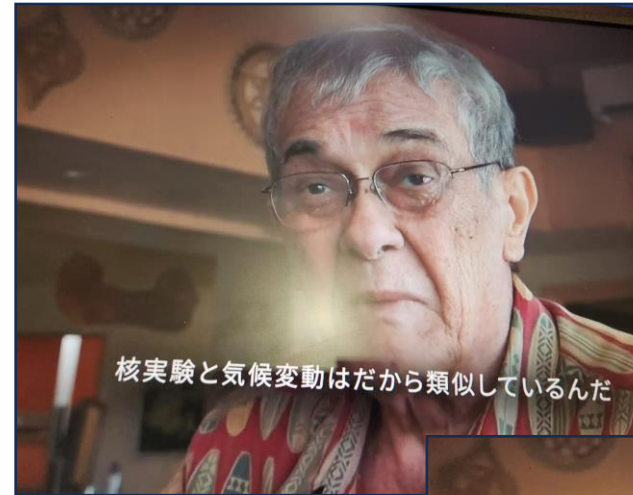
キャシー・ジェットニル・キジナー



トニー・デブルム



坂田雅子『故郷を追われて』（2021 より抜粋）



キャシー・ジェットニル・キジナー詩集『開かれたかご』  
(一谷智子・訳 みすず書房 2023年)

## ミクロネシア連邦憲法前文

海は われわれを分かつのではなく ひとつにしてくれる  
戦争を知ったがゆえに われわれは平和を望む  
分割されたがゆえに 統一を願う  
支配されたがゆえに 自由を求める

ミクロネシアの歴史は いかだやカヌーに乗って  
海を探検したときにはじまった  
ミクロネシアの民族は  
星空の下を旅した時代に ここに生まれた

世界はひとつの島なのだ  
世界はひとつの島なのだ

## 第五福竜丸展示館

月曜休館 9：30～16：00開館 無料♪



### <参考文献>

第五福竜丸平和協会編『第五福竜丸は航海中』（現代企画室 2014年）

豊崎博光 『世界のヒバクシャ』全3巻 （すいれん舎 2019～2022年）

竹峰誠一郎『マーシャル諸島終わりになき核被害を生きる』（新泉社 2015年）

竹峰誠一郎「重層化する核被害のなかで マーシャル諸島発『核の正義』を求めて  
（藤川賢・友川悠季編『なぜ公害は続くのか』（新泉社 2023年）

ほか